

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 29 年度教育研究報告書

事業課題名	分析アジア哲学を核としたアジア諸大学ネットワークの展開 (ミャンマー学生招へい)
代表者名	出口康夫
事業概要 (600 字程度)	<p>2017 年 6 月 12 日～26 日にミャンマー・ダゴン大学 (ヤンゴン大学) より博士課程学生 2 人(Hnin Hnin Wai, Phyo Theingi)を招へいした。招へい学生は、同時期に別予算で招へいしたタイ・チュラロンコーン大学大学院生 2 名と教員一名、さらに京大に研究滞在していたダゴン大学 (ヤンゴン大学) 教員一名とともに、文学研究科での分析アジア哲学に関する英語授業(出口, Jay Garfield) および、6 月 19-24 日にかけて開催された分析アジア哲学に関連する連続ワークショップ (Kyoto Philosophical Logic Workshop II, An International Workshop on the Cosmos of Dōgen, Dialetheism and Related Issues in Analytic Asian Philosophy: An International Workshop) に出席した。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>今回の事業は、ミャンマーの哲学専攻大学院生を日本の哲学科に招聘する事案としては、おそらく史上初の試みであると思われる。ミャンマーでは、ヤンゴン大学が閉鎖されるなど、哲学を含めた高等教育が必ずしも充実していたとは言えない時期が長く続いていた。が、近年の一連の民主化の流れの中で、先年、ようやくヤンゴン大学の学生募集が再開され、その哲学科も再建され、哲学の教育研究のレベルを向上させる努力が始まった。その中であって、今回招聘した二名は、ミャンマーの他の多くの大学院生がそうであるように、ヤンゴン大学の大学院に籍を置きながら、近隣のダゴン大学でティーチングアシスタントとして勤務している学生であり、ミャンマーの哲学界の次代を担う存在である。</p> <p>これまで海外渡航の経験も持たなかった招へい学生にとって、英語環境の下、Jay Garfield や Graham Priest といった世界の第一線の哲学者の演習や講演に出席するのは初めての経験であった。また彼女たちにとって、分析アジア哲学という新分野に触れるのも、これまた初体験であった。このような中であって、二人の招へい学生は、特に出口と Garfield によるセミナーの主題であって道元思想に深い興味を抱き、帰国後も、それについての研究を継続したいという意志を固めるにいたった。分析アジア哲学を軸とする、ヤンゴン大学との交流は、今後も継続される見通しであるが、その中であって、今回招へいした学生は、ミャンマー側にあって中核的な役割を担う存在に成長していくことが期待される。</p>